

エンテロウイルスの同定支援を目的としたSSCP解析の検討

斎藤 博之* 原田誠三郎 佐藤 宏康

第47回日本ウイルス学会学術集会

講演抄録 1999 : 315

【目的と意義】エンテロウイルスは分離こそ比較的容易であるものの、多くの血清型が存在するため、中和試験による最終同定に至るには相応の手間と時間を要しているのが実情である。本研究ではSSCPによるパターン解析を同定作業に応用することを目的に検討した。

【材料と方法】研究材料として平成10年に秋田県内で分離されたエンテロウイルス85株を用いた。5'non-coding領域をエンテロウイルス共通プライマーにより増幅した。DNA断片をSSCP仕様の8%アクリルアミドゲルで泳動した。並行して、これらの株について中和試験による同

定を行い、SSCPパターンと照合した。

【結果】85株のエンテロウイルスをSSCPパターンで分類すると10種類のグループに分かれた。中和試験により、同じグループに分類された株は同じ血清型であったことが示された。この内、2種類のSSCPグループが中和試験によりコクサッキーA10と判定されたため、85株のエンテロウイルスは9種類の血清型に分けられた。その内訳はエコー9, 18, 30, コクサッキーA 4, 6, 10, 16, コクサッキーB 5, エンテロウイルス71であった。

【考察】本研究の場合は、本来ならば未知の85株全てを中和試験で同定しなければならず、そのための手間と時間は非常に大きいものとならざるを得ない。これらがSSCPパターンにより10種類のグループに分けられ、それぞれのグループから代表株を1株ずつ中和試験にかけただけで済むのならば手間は大幅に軽減されることになる。

*斎藤博之

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6

秋田県衛生科学研究所

TEL : 018-832-5005

FAX : 018-832-5938

E-mail : marbas@webeyes.com